

好奇心にかられた正直者の妻は、あれ程に夫が云う品の良い人とは一体どんな立派な男なのだろうと、秘かに帰って来て戸のすきまから盗み見ました。

とたんに品の良い貴人は憤然と立ち上り「この家には二度とこないよ。」というなり庭におりと見るまに、かき消すように消え失せてしまいました。

正直者は、あの貴人はたぶん山の神の化身にちがいない、と二人が会った後内沢に小さな祠をたてて大山祇命をまつりました。

〈第二十二話〉

俺 が 浜

「ここは俺が国の浜だぞ。」いや「俺が国の浜だ。」今日もまた小舟をとりまいて十人あまりの漁夫が罵しりあっています。

毎日毎日浜の帰属をめぐっての争いが絶えません。

もともと小川一つへだてて海岸に沿ってつながる里なので、昔から行ったり来たり生活が続